

宇土市公共事業再評価委員会概要録

日 時	令和元年 11 月 18 日（月） 13：30～
場 所	市役所仮設庁舎 2 階大会議室 1
要 件	第 2 回 宇土市公共事業再評価委員会
出席者	公共事業再評価委員会委員 7 名 滝川 清（委員長）、本田 健二、中村 司、吉川 満璃子、 桑田 宏一、小山 龍次、赤澤 幸一 土木課 渡邊課長、末富技師 企画課 宮崎課長、三浦係長、菅村技師
欠席者	なし
概要	<p>1 開会</p> <p>2 前回会議からの申し送り事項について 事業担当課から公共土木工事事業費、浸水被害、降雨量の想定、市民への情報伝達方法について説明。</p> <p>（主な質疑・意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民への情報伝達方法について、家を締め切っていると、防災行政無線の放送内容が届かないことがある。インターネットや SNS を用いた方法もあるが、お年寄りには使用するのが難しい。情報弱者に対する対応を検討すべき。 →今後、防災担当部局とも対応を検討していく。 ・降雨量の想定について、30 年および 5 年に一度降る大雨を想定した改修計画であるが、年々環境が変化しており、現状の危険度は机上の想定よりも上がっていると考えらるべきである。ハードのみでなく、ソフト面での対応をどうしていくのかが課題である。 <p>3 議題</p> <p>(1) 再評価の評価基準について 事務局から再評価基準について説明。</p> <p>(2) 準用河川船場川改修事業について</p> <p>(3) 準用河川大坪川改修事業について 事業担当課から評価結果の説明。</p> <p>（主な質疑・意見等）</p> <p>【準用河川船場川改修事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船場川バイパス河川は護岸が土の部分があるため、大雨時に土砂流出する地域がある。 →維持管理を随時行っていく。

・過去の大雨時には本流に流れ込む市内各所の水路が氾濫しているため、本流だけでなく水路の整備も必要ではないか。
→市内全域の治水対策としては優先順位がある。まずは本流の整備を優先する考えで事業を進めている。

・門内地域の住宅で大雨時にトイレが使えない事態が発生している。
→下水に雨水が流入し下水処理が追い付かないことでそのような事態が発生していると思われる。下水担当部局とも情報の交換を行っていく。

・農政事業である、松原排水機場の整備が河川改修効果を発揮する前提であるが、排水機場整備による具体的な効果について個表に記載すべきである。

・個表 14. 社会経済情勢等の変化について、担当課は「B 評価」としているが、昨今の気象を踏まえると事業の必要性は高まっているため「S 評価」がふさわしい。

・事業推進を確実にするため、昨今の気象を踏まえると実情の浸水危険度は、事業開始時よりも上がっているということを付帯意見に盛り込むべきである。

【準用河川大坪川改修事業】

・既存の松原水門に文化的価値があるということで、それを避けた改修計画となっているが、住民を危険にさらしてまで文化的価値の保存が必要か。住民の安全確保が第一ではないか。文化財担当部局との意思統一が必要。
→水門を撤去して別の場所で保存する案も検討したが、費用対効果の観点から、現在の改修計画としている。今後の扱いについては地元と文化財担当部局も含めて検討していく。

・個表 14. 社会経済情勢等の変化について、担当課は「B 評価」としているが、昨今の気象を踏まえると事業の必要性は高まっているため「S 評価」がふさわしい。

・事業推進を確実にするため、昨今の気象を踏まえると実情の浸水危険度は事業開始時よりも上がっているということ、市民への情報伝達方法などソフト対策の充実などについて付帯意見に盛り込むべきである。

次回の会議は令和元年 12 月 16 日。

次回会議では、再評価個表の修正、委員会意見のとりまとめについて協議を行う。

